今回のお題は中深場の根魚五目であります。本命は超高級魚として知られ、釣りオヤジ垂涎の的になっているアラ、そしてオニカサゴ。

自他ともに認める小物釣り師にしてみれば、いずれも夢の魚でありますが、男なら、そんなサマージャンボ宝くじ並み（大ゲサだろがっ）の夢に賭けてみるのもアリなんじゃないかと、トライしてみることにしやした。

しかし中深場釣りは大昔にほんのちょっと経験しただけのオイラ。不安なのでなんとなく経験が豊富そうなヤベレンジャーに電話してみた。すると……、「まかしてよぉ。根魚のことならまかしてオレに。なんなら教えてやろうか？」と、心強い返事が返ってきた。持つべきはやはり友である。

釣り過ぎレンジャー
三石忍（みついししのぶ）
タチウオや食わせのフグ、最近じゃマルイカやカワハギでもスゴ腕の女釣り師。「ヤツがくるとオレ、自信なくすんだよね」とは情けない隊長の言。

ヤベレンジャー
谷部信幸（やべのぶゆき）
隊長の悪友でスキあらば飲んだくれる40歳。地元鹿島の飲み仲間でキャバクラ調査戦隊「キャバレンジャー」を結成。レッドなんだって（実話）。

カマレンジャー
釜井昌二（かまいしょうじ）
本誌ＡＰＣの釣り好きサラリーマン。釣りも料理もそつなくこなす「できる人」。最もまっとうな好人物で、釜ちゃんを隊長にしたら、という意見も。

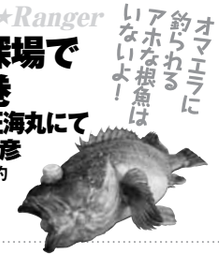
隊長ノブレンジャー
竹田信彦（たけだ のぶひこ）
連載を通じてすっかり沖釣りにハマったが物覚えが悪く、まるで上達しない酔っぱライター。ホッピーと煮込みを定期的に摂取しないと死んでしまう40歳。

出動！★その4 Bgour★Ranger

犬吠埼沖の中深場で夢に賭けるの巻

茨城県波崎港・釣楽園 征海丸にて

写真／文◎基本的に**竹田 信彦**



◀犬吠埼沖水深120メートルで釣り開始。ヤベレンジャーは何が何だかよく分かってない

電動リール入門。コイツに電話したのが間違いだった

お世話になったのは波崎港の征海丸さん。午前4時に集合、当宿の親方である阿部孝浩船長の操船で、午前4時30分に出船となった。

阿部船長に近況を伺うと、2.5～4キロ級のアラが上がっていて、バラシもあるし状況は悪くないとのこと。中には8キロのアラを上げている船もあるそうだ。

こりゃ、もしかしたらどデカイアラを釣っちゃって、本誌の表紙をオイラが飾っちゃったりして……なんて妄想がブクブク膨らんだ。

約1時間半で犬吠埼沖のポイントに到着。水深120メートルでスタートフィッシングとなった。とりあえずオイラはいつものごとくカメラを構える。ヤベレンジャーを見ると電動リールのボタンを押したりしながら、困った顔をしている。

電動リールの調子が悪いのかと思って声をかけると、あり得ない言葉が返ってきた。

ヤベ「電動リールってどうやって使うの？」

オイラ「エエッ、電動リール使ったことないの？　根魚は得意だって言ってたじゃん」

ヤベ「ああ、得意だよ。浅場の根魚は……」

ヤベレンジャーいわく浅場も中深場も狙うは同じ根魚。そうは変わらんでしょう、とオリジナルに解釈。んで、電動リールったってリールはリール。最近のは親切設計だし、簡単に使えるハズと、友達からなんの説明も受けずに借りてきた、なんてのたまいやがる。

中深場釣りが初めてどころか、電動リール入門。コイツに電話したのが間違いだった。

このままでは食材確保がマジでヤバイので、ヤベレンジャーに電動リールの使い方を教えてからオイラも仕掛けを投入する。しかし、当日の朝イチは尋常じゃないくらい潮がカッ飛んでいて、1投目から大オマツリ大会。しかもオイラのラインは100メートルくらい出た所で運悪く船のスクリューに絡まって高切れしちまった。

スプールには300メートルくらいしか巻いてないから、あと一回同じようなことをやったら確実に戦力外だ。ウーム、非常にヤバイ……。

その後もしばらくは潮が猛烈に速く、オマツリするたびにヒヤヒヤする。

しかし1時間半ほどがたったころから徐々に潮が緩くなり、それとともにアタリが活発に出始めた。

時折オモリが底を切るくらいにして待っていると、ククンと竿先がお辞儀して、ウイーンと巻き上げると20センチほどのユメカサゴが一荷で浮上。

▲初めて使う電動リールに戸惑うオッサン。使い方聞いてこいよ！

ヤベレンジャーも同サイズのユメカサゴをキャッチして、「これで食材は大丈夫だぁ！」と2人して大喜び（ちと、志が低くなってない？）。

その後も投入するたびに20～25センチのユメカサゴが釣れて楽しいったらありゃしない。

2キロ級の大オニヤ3キロのカンコが浮上。スゲーッ！

わが隊が小さな夢を手にして喜んでいると突然、常連さん2人の竿がガキューンと弧を描いた。もしやアラ？　なんて思いながらカメラを手に駆け寄ると、ややあって見たこともないほど大きなオニカサゴとカンコが浮上、スゲー。

オニカサゴを計量するとジャスト2キロの大オニで、カンコは3キロ。写真を撮ってから、これはチャンスに違いないと、そそくさと仕掛けを投入する。

その直後、わが隊の前を素通りして、またしても前出の常連さんに大型魚がヒット。ややあって、阿部船長がザバッとタモですくったのは、先ほどの大オニよりさらに大きいオニカサゴでマジでビックリ。次いで0.8キ

大物運がある人と、小物運しかない人の図

▲それでも意外に飲み込みは早く、早々に良型のユメカサゴをキャッチ

▲迫力満点！ジャスト2キロのオニカサゴ。犬吠埼沖、恐るべしです

▲特大オニとカンコを目の当たりにした隊長「次こそはオイラに」と神様にお祈りしたが……

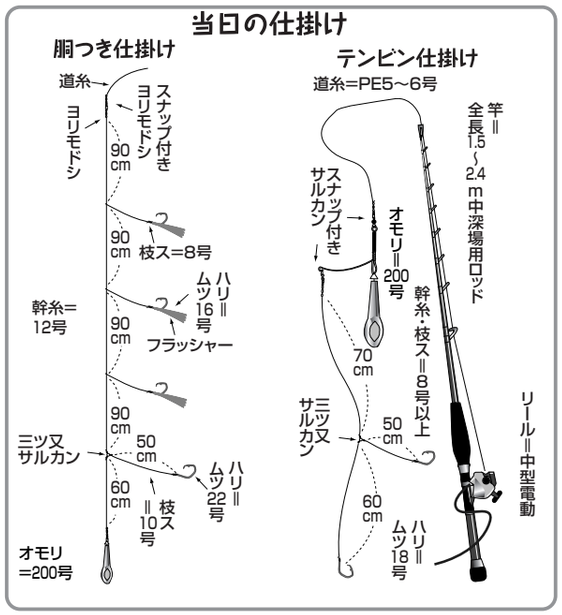
▶頭の中はすでに煮付けでいっぱいの隊長

▲なんともかわいらしい顔をしているユメカサゴ。でもお腹の中は真っ黒。「なんかキャバ星人に似てるね」と、キャバレンジャー（レッド）

★ワンポイントアドバイス Advice
ヒットした後の注意点

●阿部船長によれば、大型の根魚がヒットしたときの注意点として、まずはある程度強引に巻き上げて、根から魚を引き離すことが大切とのこと。根に潜られてしまうと、まず出てこないそうだ。根から魚を引き離したら、今度は無理せずにだましながら寄せてくるのがコツで、ポンピングはバラシの原因になるので必要ないそうだ。

★次号の『つり情報』は8月1日（土曜日）発売です！



釣って食って笑って盛り上がりましょう！『酔いどれB級グルメ』略して……

Bグル☆レンジャーの

▲50センチ級のホウボウも登場。いいなぁ
▶ユメカサゴは20センチ級中心に30センチ近いのも
◀2キロに続いて、2キロオーバーの特大オニも釣ってしまった常連氏。笑顔が実にいいです。ぜひ今度ツメのあかを……

ロクラスもキャッチされた。

うーん、何が違うんだぁ？

その後、アタリが途絶えたのを期に150メートルダチのポイントへ移動となる。少したったころ、先ほどビッグなオニカサゴを釣った常連氏に、なにやら強烈なヒット。ロッドが大きく締め込まれ、阿部船長が、「アラだぁー」と叫ぶ。船上に緊張感が走ったが、残念ながら魚が根に潜ってしまった模様。

「間違いなくアラだよぉ、今のは……」

阿部船長はしきりに悔しがる。

でも、バレてはしまったものの、アラが下にいると思うと、気持ちはどんどん高ぶり、今にも竿先が海面に突き刺さりそうな気になってくる。

そんなとき、ゴン、ゴン、ゴンと目を疑うようなアタリがオイラの竿先に現れた！ 心臓が飛び出しそうになりながら、竿を取って巻き始める。

根掛かりだった……。

▲タルいっぱいの夢を手に、満足げなヤベレンジャー。そうだよな、我が隊にしてみれば上出来、上出来（ノブ隊長）

▲ついにキタかアラ！……根掛かりだった

▲テンビン仕掛けのほか、フラッシャーの胴つき仕掛けも併用

▲0.8キロ級のオニカサゴもヒット。しっかし、なんで同じ人ばかりなんだろ？

こまめに底ダチを取り仕掛けを自然に流すこれ、アラへの近道

その後もアラらしきヒットがあったけど（もちろんオレら以外の人）、残念ながらバラシに終わり、ホウボウやオキメバルが顔を見せた午後1時過ぎに沖揚がりとなった。

結局、わが隊に大物が振り向くことはなかったが、2人で20尾以上のユメカサゴをゲット。

「オレらにしては上出来じゃん。小さいけど、ホラこんなにいっぱいの夢が……」

そう言ってユメカサゴがたっぷり入ったタルを抱えるヤベレンジャーの笑顔がなんとも印象深かった。

さて、阿部船長にこの釣りのコツを伺ったところ、タナ取りが最大のキモという。

テンビン、胴つきのいずれの仕掛けで狙う場合もタナはベタ底で、竿先が船の揺れで4～5回上下する間にオモリがトンッと1回底に着くくらいがベストとのこと。

誘いは必要なく、底ダチをこまめに取り直しながら、仕掛けが根の上を自然に流れるようにするのが、アラやオニカサゴへの近道だそうであります。

また8号以上の道糸を使う人はオマツリの原因になるので、必ず事前に申告してほしいとのこと。オモリの重さを変えて対処するそうであります。

犬吠埼沖の中深場釣りは今後も期待十分。なんか次は、ビッグな夢が釣れそうな気がしてなりませぬ。皆さんもぜひチャレンジしてくだされ。大丈夫、オレらでも釣りになったんだから（なんとなく分かる！）。

INFORMATION

茨城県波崎港 釣楽園 征海丸

☎0479・44・4757
（詳細は巻末の情報欄参照）
▶料金＝中深場アラ五目乗合1人12000円（氷付、要予約）
▶備考＝午前4時集合、午前4時30分出船。エサは持ち込み自由（希望で船宿で販売、要予約）。特製仕掛け販売。番屋2号館で宿泊、宴会も可。潮来ICより約30分

阿部 孝浩船長

ルアーで狙うカツオ＆キメジもおすすめ！

征海丸では別船でルアーで狙うカツオ＆シイラへも出船中。取材日当日に帰港した皆さんの釣果を見せてもらうと、ウマそうなカツオやキメジが続々登場。今期はすでに20キロ級のキハダがキャッチされており、魚がデカすぎてラインブレイクが多発した日もあるとか。なので、タックルはしっかりしたものでチャレンジしてほしいと阿部船長が言ってました。ルアー好きでもあるオイラは、こっちも乗りたいとマジで思いましたよ。7～8月も期待十分です！

▲ウマそうなカサゴやキメジがヒット中。ルアーアングラーは要チェックです

★『釣魚の食卓』葛島一美の旬魚食彩 絶賛発売中!!

シロート料理が自慢のお店です

Bgourmet diningroom

Bグル食堂

◆四品目…手抜きだけど、抜群にウマイ！

ユメカサゴの中華あんかけ

by 中江ちゃん（隠れBグルレンジャー）

●温めた中華丼の具をかけて完成。手抜きだけどコレがクセになるウマさ。ビールがウマイです

作り方

1： ウロコを引き、内臓とエラを取ったら、火の通りをよくするために背ビレに沿って包丁を入れる
2： 全体に小麦粉をまぶす
3： 160度の低温で5～6分揚げたら、180度の高温で4～5分揚げる
4： レトルトの中華丼の具を温めてドッとかけたら、はい完成！

●**材料**
ユメカサゴ、小麦粉、サラダ油、レトルトの中華丼の具

●征海丸の親方、阿部船長にユメカサゴのおいしい食べ方を聞いたところ、刺身にしろ煮付けにしろ絶品とのこと。

とくに油で揚げて、あんかけにするのがお気に入りとのことだったので、今回は隠れBグルレンジャーの中江ちゃんが教えてくれた「手抜きあんかけ」にしてみやした。

カラリと揚げたユメカサゴにレトルトの中華丼の具をドバッとかけるだけの超簡単料理なんでありますが、これがバカウマ。一度やったらすっかりハマって、根魚系が釣れると必ず作る？ イヤ、温めてかけるようになりやした。

最初は低温で揚げて、途中から高温でカラリと揚げたユメカサゴの身はカリッ、フワッの身が、あんかけと見事にマッチして抜群のお味。頭と骨もサクサクで、これがまたウマイ！

「やっぱりオレらには大きな夢より、小さなユメだよねぇ」

なんてつぶやきながらBグルレンジャーの夜は静かに更けていくのでありました。

ニューノブの調理後記

●この日釣ったユメカサゴは、霜造りや煮付けにもしてみたんですが、いずれも絶品でまた釣りたくなりました。しかし、アラってどんな味すんだろ？ ぜひ一度食べてみたいもんです。

ちなみにユメカサゴやアカムツやマダイやカイワリなどの口の中に、ウオノエという白い寄生虫が付いていることがあります。ウマイ高級魚にばかり付くヤツで、無毒だし取っちゃえば問題ありません。とはいえ、知らないでいきなり見つけるとビビるので、人にあげるときなどはチェックしておきましょう。

Bgour☆Renger Report

ヤベレンジャーより報告しまぁ〜す

★今回、初めて電動リールを使う釣りにトライしたんですが、なんだか夢が広がった感じがしましたね。大きな夢は手にできなかったけど、小さなユメをたっぷりと手にできたことだし、自分としては上出来です。

夢と言えば、以前付き合っていた彼女に「将来の夢とか、オレはこうなってやる！ みたいのないの？」と問われて、「そんなのない。それより明日の釣りのことで頭いっぱい」と答えたら、翌日から連絡が取れなくなったっけ。おっと、話がズレましたね、スミマセン。

当日の釣果は隊長と一緒にわが家で調理し、私はシンプルに塩焼きにしてみたんですが、ホクホクした身はうま味が濃く、芋焼酎が合っちゃってしょうがない。また夢を集めに行きたくなりました。